

事業名

## わくわくどきどき交流体験

目標

山間へき地の小規模校としての課題を克服するため、子どもたちの視野を広げ、主体的に生き生きとした地域内外での交流活動を展開する

### 1. 取組の視点

少子・高齢化および過疎化が進むへき地小規模校（小学校児童数81名、中学校生徒数41名）としての課題克服を目指し、固定化された生活環境に育つ子どもたちの視野を広げるため、主体的に生き生きとした交流体験の充実を図る。

へき地としての教育条件の整備、地域伝統文化等の豊かな体験活動、地域合同事業および地域環境整備等において、保護者および地域住民の支援と協力を得て、地域ぐるみの教育活動を継続的に展開している。

### 2. 取組の概要

#### 【7月】へき地教育条件整備

和楽器等の教材整備および校外教育活動等の充実（バス補助）を計画。

#### 【8月】小中PTA合同環境美化作業

子ども・保護者・教師・地域が一体となって豊かな自然を守り育てる。

#### 【10月】地域合同「月ヶ瀬体育祭」

幼児から高齢者までが一同に参加し、児童・生徒の日頃の成果・成長を見守る。

#### 【11月】地域合同「月ヶ瀬文化祭」

図画・工作・書道等の子どもの発表とちぎり絵・手芸・盆栽・農作物品評会とのコラボレーション。

小学校学習発表会では、狂言・尾山万歳等の地域伝統文化体験学習の成果披露。

#### 【1月】親子講演会

親子で全校道徳&音楽セラピー

#### 【2月】社会福祉フェスティバル、月ヶ瀬梅溪マラソン

### 3. 成果と課題

へき地小規模校の課題を克服するため、小中合同および地域ぐるみの教育活動が長年行われ、地域内での活動基盤・体制は整っている。

小学校では地域伝統文化（狂言・尾山万歳等）の基礎を習得し、中学校では地域社会にて発表・貢献するプログラムが定着している。

アルミ缶回収・福祉器具寄贈の地域環境と福祉の連携活動は15年間継続中であり、毎年さらに一歩前進を合言葉に取り組んでいる。しかし、中年層の地域外流失による空洞化が地域としての課題であり、PTCA（保護者と地域の連携）の活動を充実させることで、学校力と地域力の活性化に努める。

市世界遺産学習やユネスコが提唱するESD（持続発展学習）および生涯学習の理念を実現するため、地域の実情に合致した地域ぐるみの教育活動を展開していきたい。



【地域合同月ヶ瀬体育祭】



【地域合同月ヶ瀬文化祭】

事業名

**地域ぐるみの環境美化活動**

目 標

**草花・野菜等の栽培活動により、地域美化、地産地消の体験活動を通して、地域環境美化に貢献する****1. 取組の視点**

茶と梅の産地である月ヶ瀬は年中四季折々の植物を大切に育てる自然豊かな農山村である。また、名勝「月ヶ瀬梅林」および周辺の史跡・文化財により風光明媚な観光地として知られている。

15年前、生徒会が中心となり地域ぐるみのアルミ缶回収活動を始めて以来、毎年一步前進を目標に地域環境貢献活動を展開してきた。

日頃地域ぐるみの教育活動に協力いただいている地域内の公民館等の施設に花プランターを設置・管理し花いっぱい美化活動に努めるとともに、公衆トイレ・カーブミラー等の清掃活動により地域貢献に努めている。

地域環境美化に主体的に取り組ませることで、郷土に対する愛着と誇りの醸成を期待する。

**2. 取組の概要****【7月】友愛訪問**

地域内の一人暮らしの高齢者宅を訪問し、清掃等のボランティア活動を行う。

**【8月】小中PTA合同環境整備**

小中合同により、児童生徒・保護者・教職員が一致協力して、学校周辺の草刈り・剪定等の環境整備活動を行う。

**【11月】地域花いっぱい活動および地産地消プロジェクト**

校内で栽培した草花を花プランターに飾り、公民館・バス停等に設置・管理し地域美化に努める。

また、校内菜園で栽培した野菜等を活用し学校祭・文化祭等で地産地消の食育プロジェクトを展開する。(梅漬けの製品化、手作り弁当等)

**3. 成果と課題**

地域に対する奉仕活動を厭わず、むしろ真心を込めて環境美化・整備作業に取り組む生徒の姿を見て、郷土愛育成に繋がっていると判断する。

15年間継続してきた地域環境美化活動を地域ぐるみのESD(持続発展可能な教育)として推し進め、少子高齢化が進むべき地小規模校として地域活性化のためにできることを模索していきたい。

地域合同活動において中年層の空洞化が見られる。PTCA(PTAと地域の協働)活動をさらに充実させることにより、中年層地域人材の開発と活用を図り、学校力と地域力の向上に努めたい。

**【友愛訪問】****【小中PTA合同環境整備】****【花いっぱいプロジェクト】**

事業名

**ふるさと月ヶ瀬に学ぶ(人・自然・歴史・産業から)**

目標

**地域の方をゲストに迎え、伝統芸能の継承、学年に応じた地域学習などを通し地域愛に満ちた子どもを育てる****1. 取組の視点**

本校の教育目標「みんな輝く つきがせっこ」をめざして教職員は勿論、地域をあげての様々な取組を進めている。とりわけ、年間60名をこえるゲストティーチャーを招いての学習は、本事業のめざすところと一致している。

地域に伝わる伝統芸能の継承、地場産業であるお茶についての学習、万年青年クラブの方々との交流等を進める中で、生まれ育った月ヶ瀬を愛する心が育つよう期待している。

郷土愛を育むことが、昨今の緊急課題である児童数の減少化に歯止めをかける大きなエネルギーになってくれることを願ってやまない。

**2. 取組の概要**

本年度の取組としては、本校区の特産品である「梅」を活用した梅干しづくりがあげられる。



5年生が中心となり収穫した梅をつけ、年間を通じて給食の時にいただいている。また、学校訪問された方へのプレゼントとして喜ばれ本校の特色ある取組のアピールになった。梅に関する学習は「烏梅づくり体験学習」「紅花染め体験学習」へと発展させていった。

次には、伝統芸能の継承である。地域の保存会の方々の温かい指導を仰ぎながら「尾山万歳」「子ども狂言」の学習を行った。学校主催の学習発表会はもとより、月ヶ瀬文化技能の集いや世界遺産

学習全国サミットで発表することができた。多くの方に賞賛の声をいただいたことは、子どもたちの大きな自信につながった。



万年青年クラブの方々をゲストに招き、各学年にあった学習を進めた。低学年は「昔の遊びを教えてもらおう会」、中学年は「グランドゴルフ・スカイクロス交流」や「月ヶ瀬の産業学習」、高学年は「平和学習」や「烏梅づくり」というように異世代間交流の場として、また地域の先輩から学ぶ絶好の場となった。

**3. 成果と課題**

地域と一体となった取組は、今始まったものではなく、多くの先輩達が築きあげてきたものである。

本事業は、今までの本校の特色ある教育を支えてくれるものと確信している。地域の特産品である「茶・梅」の学習や「伝統芸能の継承」を地域の方から学ぶ取組を継続できる展望が持てたことが成果である。

課題としては、ゲストティーチャーへの報償費が税金等の処理が煩雑であり、計画の段階で計上しなかったことである。23年度には、もう少し使い勝手のよい報償費の運用方法をご指示いただきたい。また、地域住民への本事業に対する関心をいかに高めるか、また、意見をどれだけ集め反映するかも大きな課題である。